

地域として推進する放牧酪農の取組

(北海道：足寄町放牧酪農振興会)

取組項目

飼養管理	良質堆肥の生産	堆肥の広域流通	国産飼料生産・利用	有機畜産	その他(※)
○			○		

(※) 畜産GAP、農場HACCP、労働環境の改善、消費者理解の醸成 等該当するものを記入

<取組主体について>

- ・所在地：北海道足寄郡足寄町
- ・名称：足寄町放牧酪農振興会
- ・会員牧場：25戸



放牧風景

<取組について>

○ 概要

- ・平成8年に7戸の酪農家で「足寄町放牧酪農研究会」を立ち上げ、低コストで安定した酪農経営を目指した集約放牧を開始。
- ・会員全員の経営が大幅に改善し、この会の取組は全国的に知られることになった。平成16年3月より「放牧酪農推進の町」を宣言し、町として取組を推進。
- ・現在は発足時の会員のほとんどが第一線を退き、活動は休止。平成22年4月に足寄町農業協同組合の外郭団体として発足した「足寄町放牧酪農振興会」が活動している。
- ・活動内容においては、年間3～4回の町内外フィールド研修、年1回「北海道放牧酪農ネットワーク交流会in足寄」の開催、冬期の座学、6次産業化を目指したチーズ作り講習会の開催など多岐にわたり活動している。これらの活動を通じて会員相互の交流により「豊かな農村生活」を送ることができ、経営改善にもつながる。

○ 成果

- ・飼料代などの経費高騰にもかかわらず、会員の所得率の平均が平成22年の約30%から令和2年には36%へと、10年間で改善実績がある。
- ・放牧によって、牛のストレスを解消し、牛本来の健康を回復。これにより発情－受精－妊娠－分娩のサイクルが円滑化し、疾病の減少、長命連産性・足腰の強い牛作りが実現。